

東アジア研究所シンポジウム
「躍進するアジアと日本の挑戦」
主 旨

東アジアでは、NIEs（韓国・台湾・香港・シンガポール）、東南アジア諸国、中国が次々と経済発展を遂げる一方、従来、先進国として、これらの国々に対して援助を与える立場にあったアメリカ合衆国と日本は、経済的地位の下落を経験してきました。かつて被援助国だったアジア諸国が、今では援助国としての地位を高めています。経済的地位の変化は、軍事力を含む国力の変化にもつながり、特に中国の海外展開能力の向上が、東アジアの国際秩序に及ぼす影響への関心が高まっています。

他方、東アジアには台湾海峡と朝鮮半島という第二次世界大戦後に生まれた「分裂国家」がそのまま残っていますし、アメリカをハブとする安全保障同盟の枠組みも維持されています。

日本は、自分自身と同盟国アメリカの国力の低下という条件の下で、経済的地位の回復・維持をはかり、安全保障についての古い課題と新しい課題に対応しなければなりません。躍進するアジアに対して、日本は、どのような外交・防衛政策や経済・援助政策をとるべきなのでしょうか。アメリカとの関係は、いかにあるべきなのでしょうか。

このシンポジウムでは、国際関係史やアジア研究の専門家を招いて、以上の問題を、少し歴史的に長いスパンで考え、過去 60 年間における構造と政策の変化の中に現在と近未来を位置づけてみたいと思います。